

若戸橋上部工（吊橋）の架設計画について

日本道路公団若戸橋工事事務所 工務課長 乙 藤 憲 一

若戸橋は昭和55年度着工して現在まで約78%の進捗をみており下部工事、戸畑側取付部および塔の完成に引つづいて本年度実施予定の海上吊橋部の架設計画の概要を述べたいと思います。

現在既にその準備に入つておりますが今年の台風期前までに主ケーブルの架渡しを終り、台風期は風のために重大な支障とならない小物作業を行い、10月から桁の架設に入り、年末までには一応の吊橋の形をととのえる予定です。

昭和57年に入つて床版、舗装、ケーブルラッピング、塗装その他雑工事を終え、昭和57年秋には完全竣工の予定です。

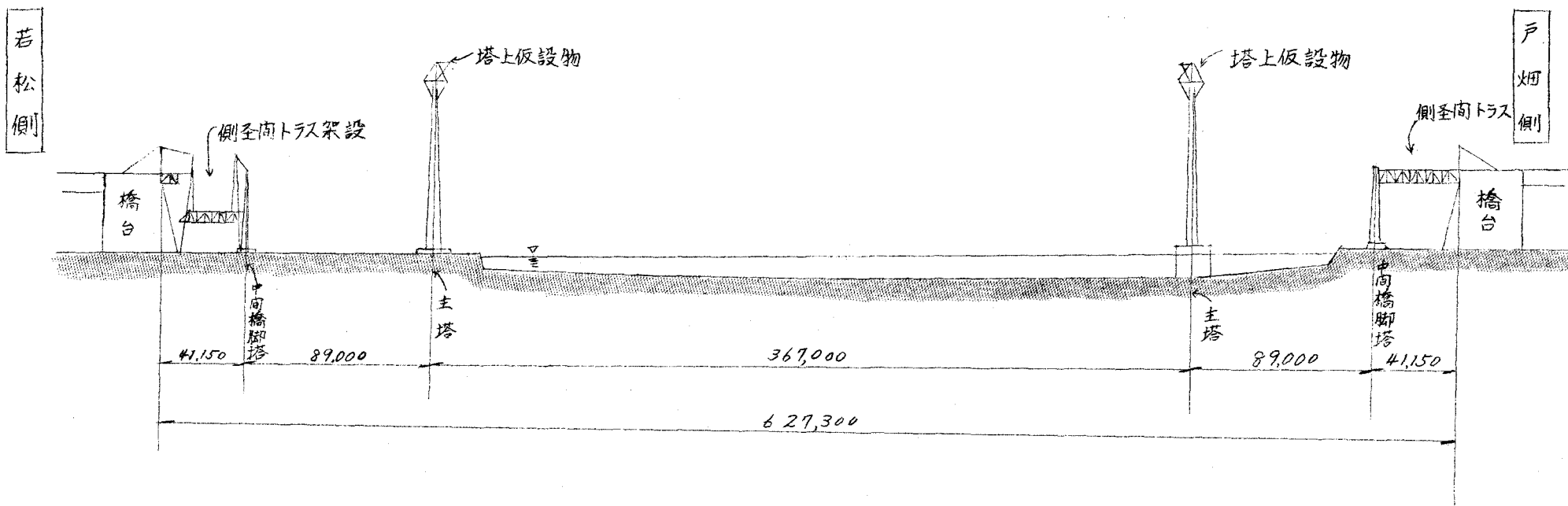
以下各段階工程図によつて説明します。

若戸橋ケーブル補剛桁工事 工程表

名 称	昭和 3 6 年											
	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
側 経 間 ト ラ ス 架 設								← 台 風 期 →				
戸 畑	→	→										
若 松		→	→									
吊 橋 架 設												
架 設 準 備 作 業	→	→	→									
ケーブルクレーン 架設			→ 渡 梅	→						主 ケーブルに吊りかえ		
ケーブル架設用足場取付					→	→		→				
メ ン ケーブルプレストレス			→	→	→	→	→					
〃 架 設						→	→					
ケーブルバンド 架 設								→	→			
ハンガーケーブル架設									→	→		
補 剛 桁 架 設										→	→	→

〔第一期〕自 昭和36年1月 至 昭和36年3月

- (1) 戸畑側、若松側、側経間トラス 2連 (C約190 T=380 T) の架設
- (2) 吊橋部、主ケーブル架設及び補剛トラス架設のための塔上仮設物 (ガイデリック、主塔上仮鉄塔、中間塔上仮鉄塔等) の架設

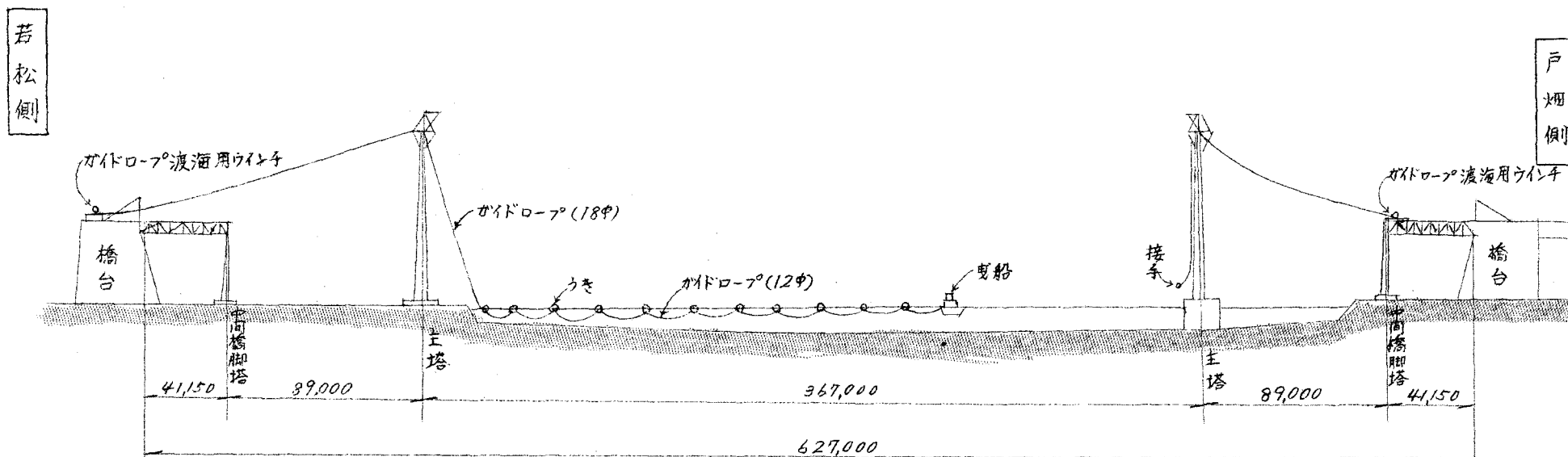


〔第二期〕自 昭和36年3月 至 昭和36年4月

ケーブル及補剛桁架設用のケーブルクレーン施設南北2系統の架設 (吊荷重15トン)

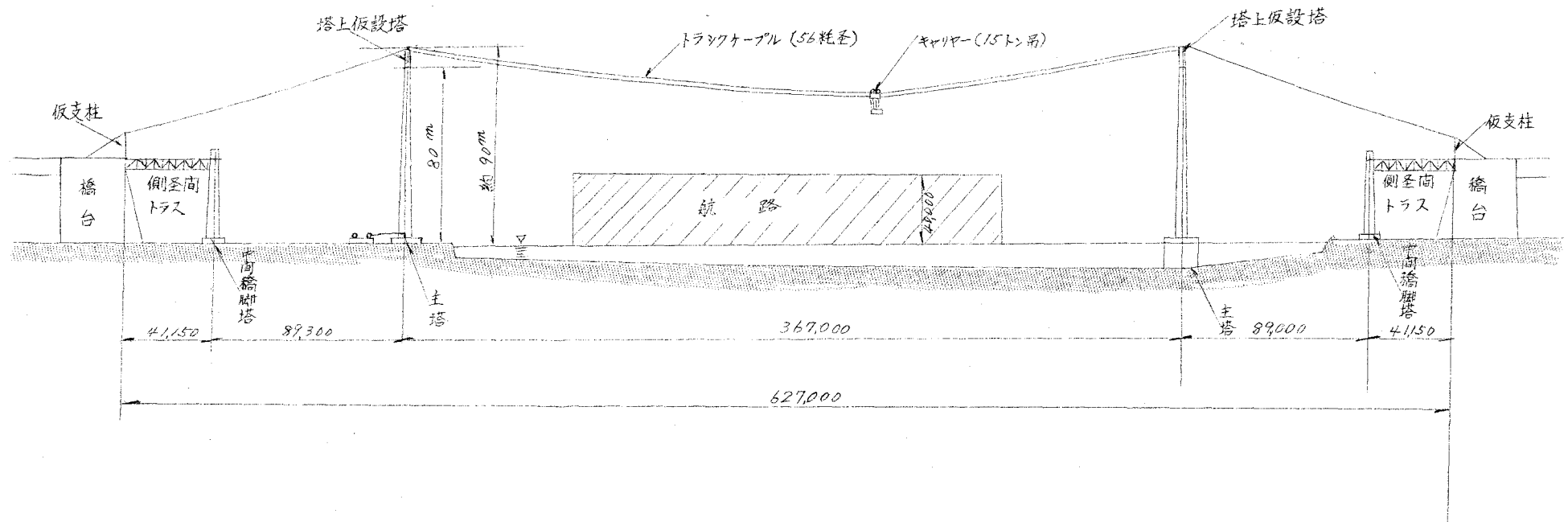
- (1) $\phi 12mm$ のガイドロープ4本を曳船によつて渡海張渡す (この間航路閉塞約5時間)

5月中旬実施予定



(2) 12mmφガイドロープを→18mmφ→30mmφとかわえて最後にトラツクケーブル(56耗径)走行索(30耗径)

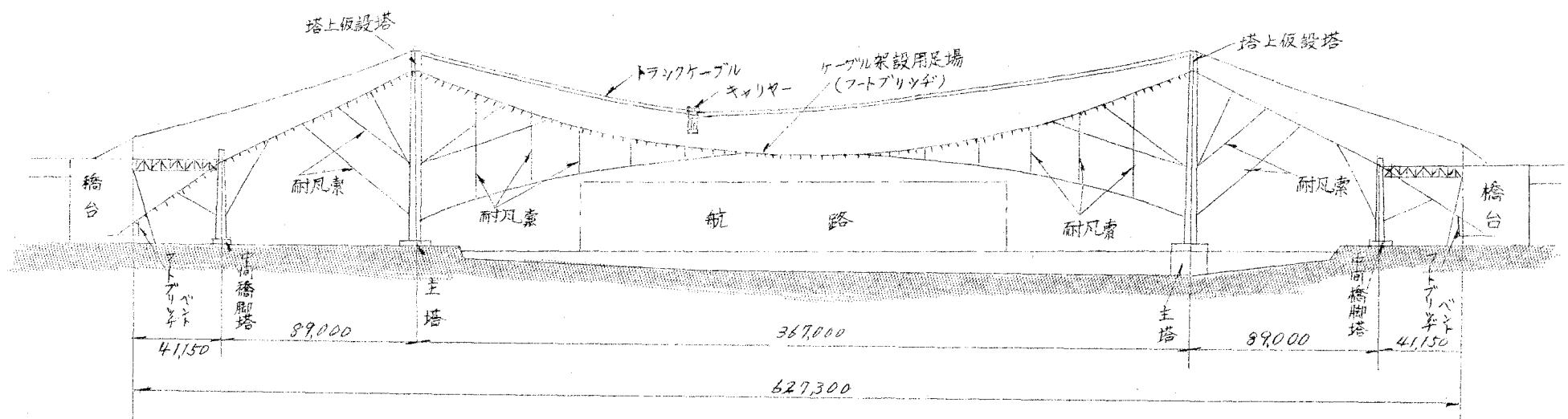
キャリア、捲揚索(16耗径)、ボタンロープ(22耗径)等の渡海取付作業を行う。



〔第三期〕自 昭和36年5月 至 昭和36年6月上旬

ケーブル架設用足場(フートブリッジ)の架設

先に取付けた、ケーブルクレーンによつて、ケーブル架設用足場の架設作業をフートブリッジケーブル(40耗径)、歩廊、耐風索の順に取付ける。

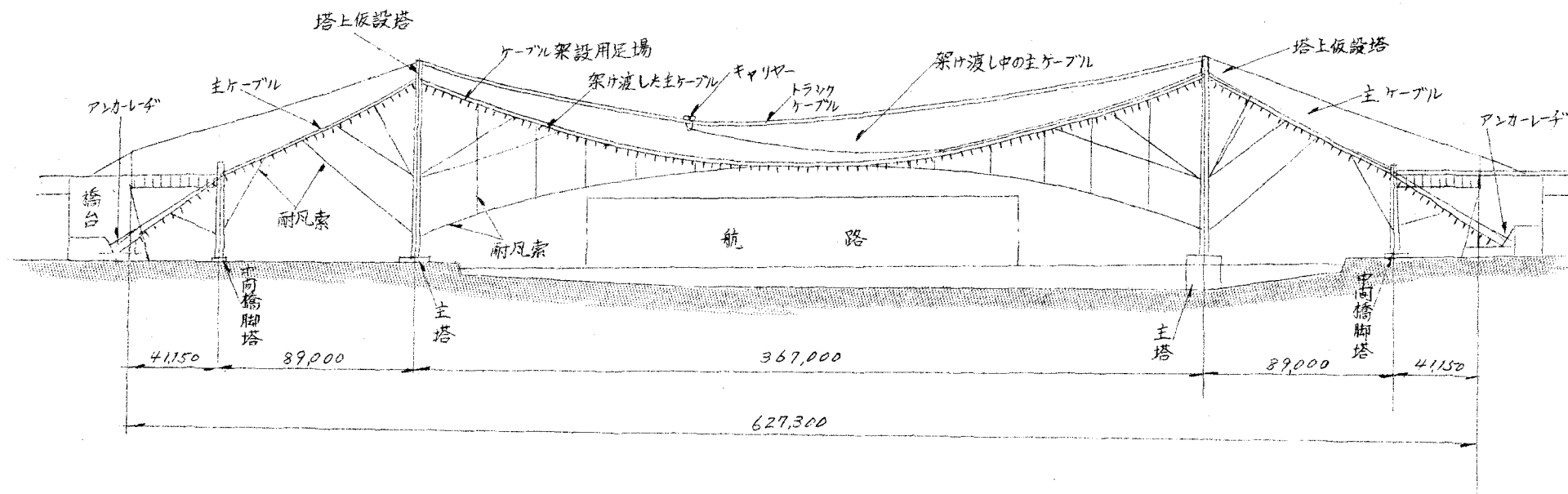


〔第四期〕自 昭和36年6月中旬 至 昭和36年8月中旬

主ケーブルの架設

ケーブル架設用足場の上で主ケーブル（1本の長さ700^Mのもの、径61号ケーブル110本、径36⁶号ケーブル12本 計122本）を架け渡し、調整する。

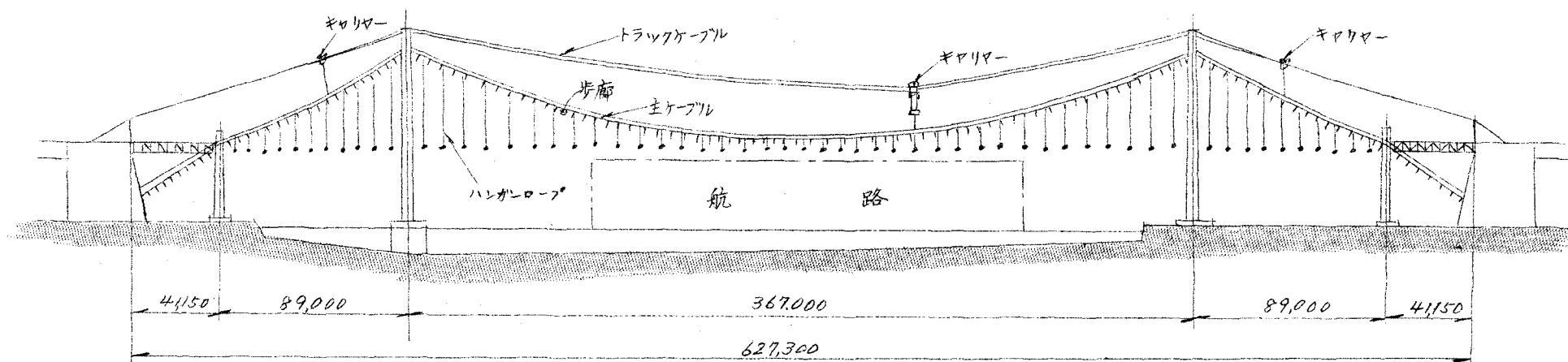
主ケーブルの架設調整が終わったら主ケーブルを一束になるように締付け、架設用足場のフットブリッジケーブル、耐風索を除去し、歩廊のみを主ケーブルから吊下げる。



〔第五期〕自 昭和36年8月下旬 至 昭和36年10月中旬

ケーブルバンドの取付及びハンガーロープの取付

主ケーブルにケーブルバンド174ヶ所の取付とケーブルバンドを介して、主ケーブルよりたれ下り補剛トラスを支持するハンガーロープ248条の取付を行う。



[第六期] 自 昭和36年10月下旬 至 昭和36年12月下旬

補剛トラスの架設

補剛トラス (約 2800 トン) を中央径間ではケーブルクレーンにより側径間では、移動式クレーンにより架設する。

架設は中央径間2. 側径間1. の割合で、主塔を中心として夫々中央、橋台方向に向つて架設する。

